



漁師の体験コーナー

いらっしゃいませ！ 将来はどんな仕事を……？ すてっぷお仕事フェス開催

いろいろな仕事を体験できるイベントが、9月29日(土)に町総合文化センター「パルナス」で開催されました。

幼児から小学生までを対象に、おままごと感覚で気軽に職業体験できるこのイベントは、NPO法人子どもネットワーク・すてっぷと町社会教育課が企画し、漁師やパン屋さん、ゲームプログラマーなど8つの体験コーナーが用意されました。

また、中里中学校の生徒もボランティアとして参加し、各ブースでお手伝いをしました。パン屋さんの体験をした子どもは、「笑顔で受け取ってもらえたことがうれしい」と仕事のやりがいを見つけたようでした。

万が一の時、 どういう行動をとる？

3地区と小泊中が合同訓練

日本赤十字小泊奉仕団が、5回目となる合同訓練を10月5日(金)に小泊中学校で開催しました。この訓練には、下前、新町2、折戸地区自主防災会と小泊中学校生徒、民生委員や同奉仕団員など約100人が参加しました。

訓練では、身を守る知識や判断力を身につける講話や映像上映、ハイゼックスを用いた炊き出し訓練が行われました。また、小泊消防署隊員を講師に招いた講習会も開かれ、心肺蘇生・救急法の指導を受けました。

この日、小泊消防署から講師として参加した長谷川実里さんは、消防職員初任教育課程修了時に、最も総合的に優れた人に贈られる知事賞を受賞して、配属となりました。入学者総勢58人のうち、女性は長谷川さん1人でしたが、仲間たちと切磋琢磨して、受賞できたと言います。

長谷川さんは学生時代に、水難事故で友人を亡くしたことがきっかけで、人を助ける仕事がしたいと思うようになり、高校卒業後に救急救命士の資格を取り、消防士になりました。長谷川さんは「励ましてくれる仲間がいたからこそ、受賞に結びついた。」と仲間への感謝を述べました。



心肺蘇生・救急法を学ぶ



知事賞の賞状を持つ長谷川さん



年齢を気にせずに、いきいきと!

「めんだりカッチャの会」が内閣府から選定

年齢にとらわれず、自由で生き生きとした生活を送る高齢者や高齢者団体をたたえる、内閣府の「エイジレス・ライフ実践事例、社会参加活動事例」に、当町の「めんだりカッチャの会」が選定されました。10月12日(金)に、濱館町長から賞状と記念の盾が手渡されました。

めんだりカッチャの会は、高齢者福祉施設で食事の配膳や後片づけを手伝いながら、施設を利用する高齢者とふれあう活動などを、24年間ほぼ毎日続けてきました。平均年齢75歳となる団体ですが、「誰かの役に立つことが、ひいては自分たちの生きがいにつながる」という考えで、利用者の笑顔は自分たちの励みになると自らも楽しみながら地域福祉と向き合ってきたことが、今回の受賞につながりました。

豊かな表現力に驚きの声

MOA美術館中泊児童作品展

MOA美術館児童作品展の表彰式が、10月14日(日)に中央公民館で行われました。受賞作品は次のとおりです。

(※罫は絵画の部、罫は書写の部、数字は学年)

- MOA美術館奨励賞…罫 木村陸(中里小3) / 罫 成田りおん(小泊小2)
- 東奥日報社賞…罫 外崎滯(武田小1) / 罫 加藤心春(中里小5)
- 中泊町長賞…罫 千葉徠斗(中里小3) / 罫 青山海斗(薄市小3)
- 中泊町議会議長賞…罫 平山幸音(薄市小5) / 罫 山田皇龍(小泊小6)
- 中泊町教育長賞…罫 三上凜子(中里小1) / 罫 成田桜(薄市小5)
- 中泊町連合PTA会長賞…罫 塚本帆夏(武田小4) / 罫 秋谷舞柚花(中里小5)
- 保護司会中泊分会会長賞…罫 成田凜音(中里小3) / 罫 新岡芽彩(武田小5)
- 中泊町更生保護女性会会長賞…罫 木村牙斗(中里小2) / 罫 三上こたろう(中里小1)
- 中里町自然農法研究会会長賞…罫 加藤彩姫(中里小3) / 罫 成田ななせ(薄市小1)
- 金賞…罫 三和瑛翔(小泊小2)、下山龍之介(薄市小4)
罫 菊池心葉(中里小3)、山田ころこ(小泊小2)
- 銀賞…罫 外崎香豊(中里小1)、佐藤夕希也(小泊小5)
罫 佐々木桜実(薄市小6)、磯野魁仁(小泊小4)
- 銅賞…罫 塚本恵冬(武田小2)、加藤慶空(中里小3)
罫 宮下和花(小泊小3)、佐野陽菜(武田小4)
- 佳作…罫 五十嵐叶(中里小1)、荒閑陽智(中里小3)、三上陸斗(武田小3)
罫 竹越美央(武田小2)、木村明日香(中里小5)、新岡萌愛(薄市小5)



目指すは日本代表!? 高みを目指して

トップアスリート陸上クリニックを開催

町陸上競技協会が、井沼清七氏生誕111周年記念事業としてトップアスリート陸上クリニックを10月14日(日)に町運動公園陸上競技場で開催しました。講師に佐藤拳太郎選手(富士通株)・父は中泊町出身)と橋元晃志選手(富士通株)を招待し、トレーニング方法や速く走るコツを教わりました。

陸上クリニック後には、世界選手権で実際に着用したユニフォームやジャージの抽選会が行われました。参加者は「佐藤選手と橋元選手の走りを見て、自分も早く走れるようになりたい」と熱く話していました。



秋晴れのもと、豊かな自然を満喫

第8回大沢内ため池ウォーキング開催

澄み渡る秋空のもと、10月14日(日)に、8回目となる大沢内ため池ウォーキングが開催され、約400人が参加しました。参加者たちはウォーキングや景色、会場産品が当たる抽選会などを楽しみました。

町特産物直売所ピュアで行われた開会式では、濱館町長をはじめ町ウォーキング協会(会長 夏原謙二)から参加者へエールが送られました。津軽弁のラジオ体操で準備運動をしたあと、参加者たちは12キロと7.7キロの2コースに別れてウォーキングを楽しみました。

岩手から来たという櫻井新太郎さんは「知人の紹介で初めて中泊町のウォーキングに参加した。東北各地のウォーキングイベントに参加しているが、秋晴れの空にこのロケーションは素晴らしい」と話しました。

この大沢内ため池ウォーキングは、青森県ウォーキング協会が実施する「青森県ウォーキングリーグ」の1つになっており、短命県返上にも貢献しています。

ごみの減量化の必要性を見て学ぶ

各校でゴミに関する学習を実施

ごみに関する学習が、9月21日(金)に武田小学校、10月3日(水)に薄市小学校で行われました。

2校は町最終処分場と西部クリーンセンターを見学し、家庭から出たごみのその後を、ビデオや実際の設備を見学して学習しました。

なぜごみの減量化が必要なのか、水を切る必要があるのかといった説明に、児童たちは真剣な眼差しを向けてメモを取っていました。



採れたての宇宙毛豆はどんな味？

園児たちが五農生と脱きょう作業体験

薄市こども園と富野こども園の園児たちが、五所川原農林高校の生徒たちと協力して、枝豆を枝から外す脱きょう作業に挑戦しました。宇宙毛豆は、2010年に宇宙滞在した大豆の種子を、五所川原農林高校の生徒たちが増やして育てたものです。5月に、薄市こども園・富野こども園の園児たちと五農生たちが、町内農家の野上健さんの畑に種まき体験し、園児たちは自分たちが植え、大きく成長した毛豆が山盛りになっているのを見て大興奮。五農生に教えられたとおりに、枝から毛豆を丁寧に外しました。脱きょうした毛豆は、塩ゆでにしてみんなで味わいました。採れたての試食をした園児たちは「いっぱい採れて楽しかった。毛豆はすごくおいしかった」と笑顔で話していました。



PRパレード



清掃奉仕活動

感謝を込めて清掃奉仕活動

シルバーの日

10月17日(水)、町シルバー人材センター(理事長 近村敦)が町内でPRパレードや奉仕活動を行いました。県シルバー人材センター連合会では、事業の普及月間である10月の第3水曜日を「シルバーの日」と定めており、例年、中泊町で奉仕活動に参加した人数は県内でも上位に位置し、今年も大々的に開催されました。

中央公民館での開会式のあと、一行はPRパレードで中里こども園の鼓笛隊を先頭に津軽中里駅まで練り歩きました。

奉仕活動では、カーブミラーのふき掃除やごみ拾いなど清掃活動を行いました。作業後は、中里警察官駐在所の阿部裕之所長が「詐欺にだまされないで」、元警察官の小向千鶴子さんが「それぞれの立場になって」と題し、高齢者が被害に合わずに元気で暮らしていくための講演をしました。近村理事長は、「これからも活動を続け、高齢者が生き生き生活できれば」と今後思いを馳せました。

さらなる利用促進をはかる

奥津軽いまべつ・津軽中里駅間バス運行協議会

北海道新幹線奥津軽いまべつ駅と津軽鉄道津軽中里駅を結ぶ、二次交通路線バス「あらま号」の運行協議会が、10月19日(金)に中泊町役場で会議を開きました。

協議会会長の中嶋久彰今別町長は、昨年10月から今年9月までの合計利用者数は3,123人で、バス1便当たり1.07人と、国の補助金交付基準である1便平均1人を上回ったことに触れながら、「平均乗車人数を2人、3人と増やしていけるよう、新幹線の利用はもちろん、北海道道南を含めたイベントを通してバスをPRしていきたい」と話しました。



災害を地域で乗り越えるために

折戸地区自主防災会が研修会実施

折戸地区自主防災会(会長・台丸屋優)が、10月16日(火)に県の事業である「出前トーク」を活用した研修会をすくすく折戸館で実施しました。同会は、平成30年9月6日付けで設立され、町内で5地域目の自主防災組織となります。研修会には濱館町長が訪れて、自主防災組織の認定証を台丸屋会長へ直接手渡しました。研修では、県が作成した防災ハンドブック「あおりおまもり手帳」を用いて、災害への備えや乗り越え方などを学びました。

台丸屋会長は、「地域住民から設立に前向きな声があり、また集落支援員の働きもあって会を設立する運びとなった。新しい組織ということは、未熟な部分がある。研修や避難所の確認などといった活動を重ね、不測の事態に備えたい」と意気込みを話しました。

自主防災組織とは、日頃から訓練などを行い、防災の3原則のうち自助・共助を地域で取り組む組織です。災害時は、独自の連絡網により、高齢者などの逃げ遅れがないよう、地域で自主的に対応し、最小限度の被害で災害を乗り越えることが期待されます。7月の西日本豪雨では、自主防災組織の活躍によって、人的被害が出なかった地域もありました。



町長への答申の内容を決定

第5回こどもり小中学校設置検討委員会

5回目となるこどもり小中学校設置検討委員会(委員長 藤田龍郎)が、10月24日(水)に日本海漁火センターで開催されました。同委員会では、これまでの会合を振り返りながら、16ページに及ぶ答申書案を精査し、内容を決定しました。

もともと小泊中学校では、老朽化進行のために建て替えの検討がされていましたが、人口減少に伴う児童・生徒数の減少を見据えて見直しとなりました。

そこで、小泊・下前地区で小泊中学校改築に関する懇談会やアンケートを実施した結果、中学校単体の建て替えではなく小泊小学校と統合した小中学校への建て替えの意見が多数でした。これを受けて、濱館町長から同委員会へ「地域の中心となる学校」の設立のために、統合小中学校の基本構想を諮問する運びとなりました。

基本構想の内容としては、新学校のあるべき姿、理想の学校像、位置、設置規模、付帯する機能などです。これらを盛り込んだ答申書は、11月12日(月)に藤田委員長から濱館町

見直し ・小泊中学校建て替えの計画見直し

調査 ・小泊、下前の2地区を対象に、地区懇談会やアンケート
・小中一貫校への建て替えの意見が多数

諮問 ・濱館町長から、統合小中学校の新学校の基本構想を諮問

会議 ・こどもり小中学校設置検討委員会と称した、新学校のあり方を検討する会議を開催(全5回)

答申 ・同委員会が検討結果を濱館町長へ答申

長へ手渡され、これを元に、小中一貫校の建設計画が進められます。